

称号及び氏名 博士(看護学) 川勝 和子

学位授与の日付 令和3年9月25日

論文名 小児がんの子ども・家族に関わる看護師のストレス尺度の開発
Development of the Stressor Scale for Pediatric Oncology
Nurses

論文審査委員 主査 檜木野 裕美
副査 中山 美由紀
副査 細田 泰子

論文内容の要旨

【目的】本研究の目的は、小児がんの子ども・家族に関わる看護師のストレス尺度の開発を目的とした。

【方法】本研究は、1から3の3段階の方法で尺度を開発した。

1. 尺度原案の作成:小児がんの子ども・家族に関わる看護師のストレスに関する概念分析および文献検討、小児がんの子ども・家族に関わる看護師を対象とした質的研究(予備研究I)の結果をもとに尺度原案を作成した。

2. 尺度原案の表面妥当性・内容妥当性の検証(本研究I・II):1) **本研究I:** 便宜的抽出法で選出した小児看護学研究者、小児がんの子ども・家族に関わる看護師9名を対象に郵送法による無記名の自記式質問紙調査(40分程度)を行い、項目の文章表現が理解できるか、回答のしやすさ、追加項目について意見を得た。2) **本研究II:** 便宜的抽出法で選出した小児看護学研究者、小児がんの子ども・家族に関わる看護師9名を対象に郵送法による無記名の自記式質問紙調査を行い、I-CVI (item-Content Validity Index) と項目の内容の過不足および表現に関する意見を得た。3) **尺度項目の修正:** 本研究IおよびIIの結果に基づき、項目修正を検討した。

3. 尺度項目の決定および尺度の信頼性・妥当性の検証(本研究III): 研究協力の同意を得た小児がん拠点病院および小児がん診療病院73施設の看護師1246名を対象に郵送法による質問紙調査を行った。調査内容は、小児がんの子ども・家族に関わる看護師のストレス尺度(案)59項目、病院に勤務する看護師の職務満足測定尺度、日本版バーンアウト尺度、個人属性である。分析方法は、項目分析、探索的因子分析を行い、尺度項目を選定した。尺度の信頼性では、Cronbach's α 係数、折半法による信頼性係数の算出、妥当性は、構成概念妥当性として、探索的因子分析、確認的因子分析、基準関連妥当性では、外部基準として、病院に勤務する看護師の職務満足測定尺度、日本版バーンアウト尺度との相関分析を行った。

4. 倫理的配慮：すべての研究は、大阪府立大学大学院看護学研究科研究倫理委員会の承認を得た。

【結果】1. 尺度原案の作成：概念分析、予備研究Ⅰから得られたカテゴリーに基づき、【子どもの苦しむ姿】【家族の精神状態】【子どもの主体性が尊重しにくい状況にあること】【化学療法の複雑な管理】【終末期に穏やかな時間をもてないこと】の5下位尺度85項目（5段階リッカート法）の尺度原案を作成した。

2. 尺度原案の表面妥当性・内容妥当性の検証（本研究Ⅰ・Ⅱ）：1）本研究Ⅰ：尺度項目の意味内容や文章表現に関する意見は、261件、80項目、概念に関する意見は35件、全体に関する意見は6件であった。尺度原案の85項目のうち19項目を削除し、7項目を統合、16項目を追加し、73項目とした。2）本研究Ⅱ：I-CVI 0.78未滿12項目を削除した。I-CVIが0.78以上の項目の中では、意見をもとに5項目の表現を修正し、2項目を統合した。73項目のうち12項目を削除し、2項目は内容が重複したため、削除した。その結果、小児がんの子ども・家族に関わる看護師のストレス尺度（案）は、5下位尺度59尺度項目となった。小児がんの子ども・家族に関わる看護師のストレスの定義を「小児がんの子どもや家族に対して、発症期から終末期においてケアするなかで、ストレスを引き起こす刺激となるさまざまな事柄やできごと」とした。

3. 尺度の信頼性・妥当性の検証（本研究Ⅲ）：回答を得た558部（回収率44.8%）のうち有効回答469部（有効回答率84.0%）を分析対象とした。項目分析および探索的因子分析（主因子法、Promax回転）、項目内容の再検討により39項目を削除し、【苦痛な状態にある子どもへの対応】【子どもの知る権利を擁護できない状況での対応】【子どもの思いがわかりづらい状況での対応】【化学療法の複雑な管理】【病状が悪化した子どもの家族への対応】の5下位尺度20項目の尺度を作成した。信頼性では、Cronbach's α 係数0.802~0.938、折半法による信頼性係数は0.911であった。妥当性では、病院に勤務する看護師の職務満足尺度との相関関係は認めなかった。日本版バーンアウト尺度との相関は、 $\rho = -0.167 \sim -0.277$ ($p < 0.05$ および $p < 0.01$) であった。構成概念妥当性の検討として、採用した5因子20項目について確認的因子分析を行った。モデル適合は修正指数に基づき、S8の誤差とS9の誤差の間に共分散を描いた結果、 χ^2 値=537.7、CFI=0.925、GFI=0.882、AGFI=0.844、RMSEA=0.075に改善した。

【考察】小児がんの子ども・家族に看護師のストレスについて、あらゆる小児看護経験年数の看護師の質的研究と概念分析の結果から尺度原案を導き出した。表面妥当性・内容妥当性の検証を経て、基準関連妥当性に課題はあるが、構成概念妥当性、信頼性は確認でき、開発過程及び方法は妥当であると考えられる。本尺度は、小児がんの子ども・家族に関わる看護師のストレスを測定できること、看護師のストレスにおけるコーピングおよびその管理者の看護師のメンタルサポートでの活用に期待できると考えられる。

キーワード：看護師、小児がん、ストレス、尺度開発

学位論文審査結果の要旨

本研究の目的は、小児がんの子ども・家族に関わる看護師のストレス尺度の開発をすることである。

本研究は、尺度原案の作成、尺度原案の内容妥当性・表面妥当性の検証、尺度項目の決定及び信頼性・妥当性の検証の段階を踏んで尺度開発をした。尺度原案は、概念分析、小児がんの子ども・家族に関わる看護師 16 名を対象とした質的研究結果から作成し、5 下位概念 85 項目で構成した。次に尺度原案の表面妥当性・内容妥当性の検証では、小児看護学研究者、小児看護専門看護師 9 名を対象に、尺度原案の概念の定義と項目間の関連性、内容の過不足、表現への意見をj得る質問紙調査を実施し、尺度項目は 73 項目になった。さらに小児看護学研究者、小児看護専門看護師 9 名を対象に、内容妥当性指数(I-CVI)、項目内容の過不足、表現の明確性に関する質問紙調査を実施し、I-CVI が 0.78 未満の 12 項目を削除、内容の重複を削除し 59 項目の尺度になった。信頼性・妥当性の検証では、研究協力の同意を得た小児がん拠点病院および小児がん診療病院 73 施設の看護師 1246 名を対象に、尺度案、病院に勤務する看護師の職務満足測定尺度、日本版バーンアウト尺度等を郵送法による質問紙調査を行った。分析対象は 469 名であった。

項目分析、探索的因子分析により【苦痛な状態にある子どもへの対応】【子どもの知る権利を擁護できない状況での対応】【子どもの思いがわかりづらい状況での対応】【化学療法の複雑な管理】【病状が悪化した子どもの家族への対応】の 5 下位尺度 20 項目の尺度を作成した。信頼性では、Cronbach's α 係数 0.802~0.938、折半法による信頼性係数は 0.911 であった。妥当性では、日本版バーンアウト尺度との相関は、 $\rho = 0.264$

($p < 0.01$) で弱い相関であった。確認的因子分析による適合度は許容範囲で、適合度指数は概ね良好であった。以上から、小児がんの子ども・家族に関わる看護師のストレス尺度は活用可能性のある尺度である。

本研究を審査基準に基づき審査した。本尺度は、小児がん看護の現状を捉え尺度開発の段階を丁寧に踏んで作成している。看護実践の場で活用しながら、尺度を洗練させることで小児がん看護に非常に貢献できる。小児臨床看護実践の発展に寄与する学術的重要性を有している。

以上のことから、本研究は博士論文としての価値を有し、学位の授与に値するものと判断した。